



「心のクリーン」と、地域とのつながりを大切にしています。

イオン東北株式会社 イオンスーパーセンター鉤取店は、オープン以来、地域の衣・食・住を支える拠点として、地元の人々に親しまれてきました。地域貢献の一環として、毎月11日の「イオン・デー」には、従業員による店舗周辺の清掃活動を継続しています。長く続けてきた清掃活動に込める思いや、現場ならではの工夫について、お話を伺いました。

気軽に参加しやすいスタイルが長続きの秘訣です

— 清掃活動を始めたのは、どんなきっかけからだったのですか。

善山さん：きっかけは、1991年4月29日の「緑の日」に始まった「クリーン＆グリーン」キャンペーンでした。この取り組みを継承し、地域社会への貢献を目的として、現在の活動を続けています。私たちは、地域のお客さまに支えられて事業を行っていますので、従業員一人ひとりが「自分たちが働く店舗の周辺は、自分たちの手でしっかりきれいにしよう」という意識を持つことが大切だと考えています。月に1回の清掃活動は、日頃の接客や仕事への向き合い方を見つめ直し、「お客さまに喜んでいただけるお店でありたい」という原点を再認識する日です。その積み重ねが、結果として地域の美化や自然環境の保護にもつながっていると感じています。

— 活動の内容と、工夫していることを教えてください。

善山さん：清掃活動は、毎月11日の9時から17時までの間に実施しています。対象エリアは、店舗1階の駐車場内と店舗周辺の歩道です。当日は出勤している従業員が清掃を行い、参加者はおよそ30人、多いときには40～50人ほどになります。作業中は、「私は左に行くね」というように自然に声をかけ合い、和やかな雰囲気で行われています。ごみ袋や火ばさみ、軍手などの清掃用具は、事前に準備し、集めたごみは、当日限定で設ける回収コーナーに分別して持ち寄ります。その後、清掃係が回収して、さらに細かく分別して処理しています。

遠藤さん：あえて固定の時間は設けず、出勤前後の都合のよい時間帯に、各自が無理のない範囲で参加できる形にしています。多くの人は15～20分ほど歩きながら清掃を行い、「ここからここまで」と自分で区切りを決めて取り組んでいます。車通勤の人だけでなく、自転車やバスで通勤する人も多いので、通勤途中で気づいた場所を優先して取り組むなど、それぞれの生活動線が活動に活かされています。

また、当日は従業員入口の通路に清掃用具一式を用意して、「今日は清掃の日」と分かるようにしています。出勤時に自然と目に入ることで活動を思い出し、帰りがけに「やっていこうか」と参加する人も少なくありません。見える化による周知と動線づくりを一体で考えている点も、継続につながる工夫の一つです。

— この活動を続ける中で、ごみの種類に変化はありましたか。

遠藤さん：多いのは、缶やペットボトル、タバコの吸い殻など、手に持っていたくないものほど、ポイ捨てされやすい傾向があると感じています。また、街路樹の茂みなど、人目につきにくい場所にごみがたまりやすいのも特徴です。こうした傾向は皆が把握しており、自然とそうした場所を重点的に清掃するようになりました。

時折、車の部品やタイヤのホイールといった、「なぜここにあるの?」と思うようなものが見つかることもあります。車の往来が多いエリアならではのごみだと感じます。

善山さん：一方で、時代の変化も実感しています。以前は多かったタバコの吸い殻は徐々に減り、代わって増えてきたのがマスクです。利用者が増えたこともあり、ごみの内容は社会状況とともに変わっていくのだと改めて感じます。



店長 善山 勝支さん(左)
神奈川県藤沢市出身。趣味は高校野球観戦。

総務課長 遠藤 恵美さん(右)
岩手県盛岡市出身。趣味は推し活。

近隣企業や地域とのつながりを増やしたい

— 社員の方の反応はいかがですか

遠藤さん：こうした取り組みは、従業員同士のコミュニケーションを深める時間にもなっています。衣・食・住と部門が分かれている中で、活動を通じて部門間の壁が取り払われ、縦割りではない関係が生まれます。例えば趣味や家庭、子どものことなど、同じ世代ならではの話題を交わす機会が生まれ、それはとても貴重な時間です。こうした場があることで、自然なコミュニケーションが育まれていると感じています。



— 今後、挑戦してみたいことを教えてください。

善山さん：今後は、お店の外にも一歩踏み出し、地域の学校や団体と連携した清掃活動や植樹イベントなど、環境保全の取り組みも進めていきたいと考えています。私は昨年9月にこの店舗に着任したばかりなのです。以前は福島県のイオン店舗で店長を務めていました。そこでは地域の清掃活動を継続して行っており、近隣の企業の方から「一緒にごみ拾いをしたい」と声をかけていただき、話し合いを重ねながら協力関係が広がっていった経験があります。鉤取店では、まだ他企業との取り組みはありませんが、そうした成功事例を生かし、今後は同じような活動につなげていけたらと思っています。

日頃のこうした交流は、災害など万が一の時に、手を取り合える関係づくりにつながるはずです。多くの人や企業が協力することで、地域に還元できる力も大きくなります。その輪を、ぜひ鉤取店でも広げていきたいと考えています。

— 「清掃活動を始めたい」と思っている方々に、メッセージをお願いします。

善山さん：清掃活動は、特別なことではなく、日常の中で無理なくできる取り組みです。ほんの数分の協力でも、まちの景色は大きく変わります。ごみを拾うという小さな行動ですが、その姿を見た人が「捨ててはいけないな」とか、「自分もできるときに拾おう」と感じるきっかけになります。大切なのは、粹にとらわれず、自分たちのスタイルに合った、行動に組み込みやすい仕組みをつくることです。「負担だ」と感じずに続けられることが、長く取り組むための秘訣だと思います。ぜひ気軽に参加していただき、一緒に気持ちの良いまちづくりを始めていきたいですね。

【イオンスーパーセンター鉤取店のごみ拾いスタイル】

活動にあたっては、安全面への配慮を何より大切にしている皆さん。車通りが多い場所もあるため、「車に気をつけよう」と声をかけ合いながら注意を促しています。無理をしないことも心がけており、夏場の暑さによる熱中症や、冬場の雪や凍結による転倒の危険がある時期は、無理をせず活動を控えています。また、黄色いタスキを身に着けて歩くことで、周囲からも目立つようにしています。そのため、ご近所の方や通行中のドライバーにも、「お店の人たちが、ごみ拾いをしている」と認識していただいているようです。

※写真は昨年夏に、規模を拡大して実施した「イオン・デー」の清掃活動の様子

